
特集 1 健康食品を医学・薬学から考える

【巻頭言】

寺尾 純 二 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部食品機能学分野)

山野 利 尚 (徳島県医師会生涯教育委員会)

ヒトは健康に生きることを願う。生きることの基盤のひとつが食べることであり、ヒトは古来より食べることに健康に生きることの意義をみいだしてきた。したがって「健康」を強調した食品が生み出され利用されるのも当然であろう。しかし、「健康食品」を取り巻く現在の状況は混乱している。一方で科学的根拠に基づいて国が規格基準を定めた健康食品である「保健機能食品」群が存在するが、これらは巷間利用されている健康食品のごく一部に過ぎない。その多くは法的基準のない「いわゆる健康食品」であり、有効性や安全性に問題があるものも多く、利用に伴うトラブルも発生している。また、科学的根拠に基づいた情報を伝えるべきメディアがその責任を果たしておらず、むしろ放棄したかのような事件

が起こったのも記憶に新しいところである。また現在の「保健機能食品」制度自体が世界の食品開発の潮流から取り残される危惧も生じている。医療関係者にとっても、代替医療・統合医療の流れの中で疾病予防や治療における食品の役割が重要視されているにも関わらず、健康食品について十分な情報が提供されているとは言い難い。

本特集では医学・薬学の基礎や臨床でご活躍されている3人の先生方にそれぞれご専門の立場(天然医薬研究, 薬理作用研究, 臨床栄養研究)から健康食品における現状の問題点や今後の課題を執筆していただいた。

本特集が読者の健康食品に対する理解を深めるとともに、健康食品が抱える問題点を克服するための指針となることを期待する。